

令和5年度第三者評価 改善状況報告書

令和6年3月31日

施設名	港区立特別養護老人ホーム港南の郷（短期入所）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区港南3-3-23	指定管理者	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部東京都済生会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業体の場合記入)	令和6年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和6年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
事業計画や運営指針の検討に職員が参画し、ボトムアップ方式で取り組んでいる。職員の企画・提案内容について、各種委員会や行事・理念研修等でも議論・検討を重ねている。一方、職員の育成については、職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の年間人材育成計画や、職員研修委員会での研修計画策定を通して計画的に進めているが、非常勤職員の構成比率も高くなってきており、より一層の検討が望まれる。非常勤職員を含めた職員一人ひとりの意欲向上や、育成の取り組みをさらに充実させていくことが望ましい。		職員の育成、意欲向上については、指摘内容に記載されている通り、長期的な視野にたって意欲的に取り組んでいる。非常勤職員についても、新任研修に参加してもらい、施設の方針等を説明した。	職員の意欲向上については、ICTによる労働負担軽減による労働環境の改善、介護保険制度における処遇改善加算、東京都の処遇改善加算等を積極的に活用した賃金の改定に取り組む。（賃金の改定については、非常勤職員も同様）	非常勤職員を含めた全職員の意欲がさらに向上するよう、ICTを活用した事務作業の改善や賃金の改定などの取り組みを指導していく。合わせて、育成メニューの充実についても指導していく。
稼働率の向上が課題となっている。原因として、入所利用者の感染症罹患があり、一時期ショートステイ利用を中断したことがある。港南の郷ショートステイの特徴として、専用ベッドが10床と多いこと、看護師の24時間体制や理学療法士による機能訓練が可能なこと、認知症対応フロアを利用できることがあり、医療依存度が高い利用者や重度の認知症、虐待等困難ケースを受け入れてきた実績がある。今後もケアマネジャーや各関係機関と連携し、柔軟な受け入れ体制を整備し、稼働率を上げることが望ましい。		短期入所では、特養では受け入れない在宅酸素が必要な利用者の受入を行った、人工透析が必要な利用者については、令和6年3月までの実績はないが、依頼がある場合は、受入について検討する体制をとった。（港区施設案内では、受入状況△）	今後とも、関係機関との連携により、医療対応が必要な利用者も含めて積極的に受入を行い、稼働率の向上に努める。	施設の受け入れ態勢はとても充実している。そのため、関係機関と連携し、稼働率向上につながるよう指導していく。
ICT化が進展しており、排泄チェック表等の一部を除いて、介護システムとグループウェアにほとんどの情報が集約されている。所定の書式以外に、施設独自に作成した書式により収集した情報も多く、情報量は非常に充実している。今後、蓄積されたデータを活用しやすくする工夫を検討していくことが望ましい。		指摘にも記載されている通り、蓄積された情報は多岐にわたり、情報量は非常に充実している。指摘以降、職員へのヒアリングを行ったが、蓄積されたデータを「活用しにくい」という現場の声は、出なかった。	今後も蓄積された情報を積極的に活用して利用者サービスの向上に努める。	充実した情報の蓄積が確認できた。令和6年度は、蓄積された情報を積極的に活用し、利用者サービスの向上につながるよう指導していく。